

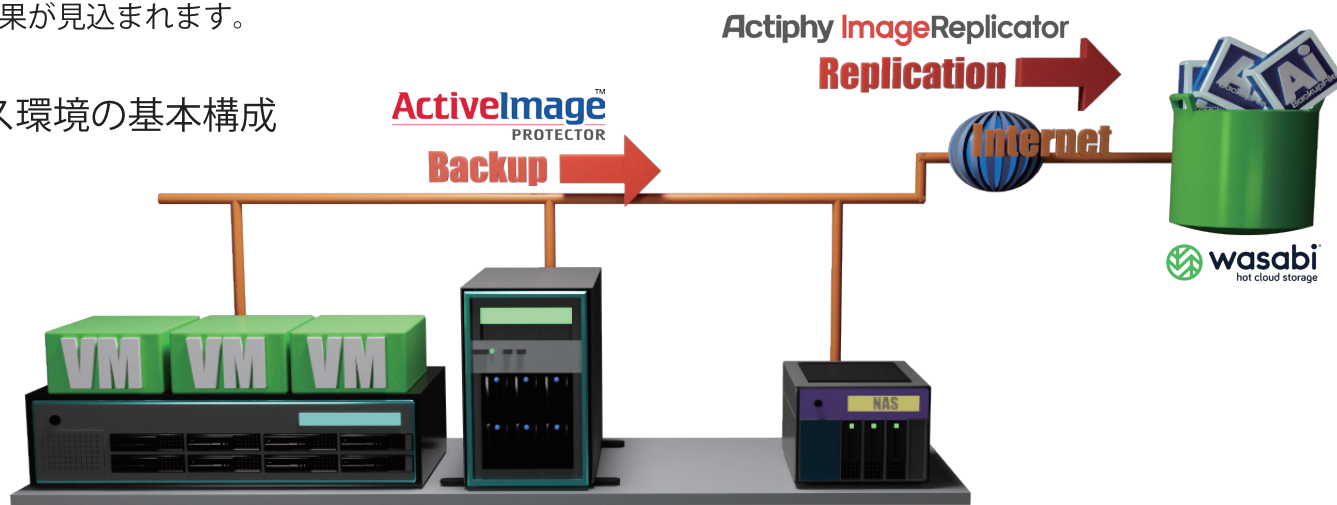
ActiveImage Protector + Wasabi Hot Cloud Storage

バックアップソリューションの ActiveImage Protector とオブジェクトストレージの Wasabi Hot Cloud Storage の組み合わせは、ビジネスで利用されるシステムの保護を目的とした BCP 対策を実現可能な、コストバランスにも優れたベストプラクティスです。

組み合わせることのでられる相乗効果

ActiveImage Protector で作成されるバックアップファイルはプロテクションされていますが、ファイルシステム上に作成されるファイルのため、現代のサイバー攻撃からの保護の観点では、そのままでは万全と言えない面があります。そこで、Wasabi を適切に設定してバックアップファイルの保存先とすることで、強力なイミュータブルストレージとしてサイバー攻撃からのバックアップファイルの保護を実現します。また、クラウドストレージであるため、災害対策としても効果が見込まれます。

オンプレミス環境の基本構成



オンプレミスの物理 / 仮想サーバーをローカルエリアネットワーク内の NAS へ ActiveImage Protector でバックアップし、NAS にインストールした Actiphy ImageReplicator により、バックアップファイルを Wasabi 内のバケットにレプリケーションします。

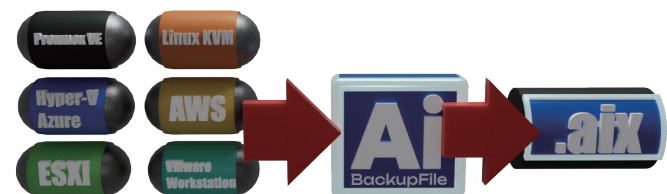
Wasabi に作成したバケットは、バージョニングとオブジェクトロックを設定することで、ActiveImage Protector のバックアップファイルの削除や変更などを防止する、イミュータブルストレージとして使用できます。

通常のハードウェア障害やソフトウェア障害、オペレーションミスなどの障害時は、NAS のバックアップファイルを使用してシステム全体のリカバリー、またはファイル / フォルダ単位のリカバリーを実施します。

サイバー攻撃や災害などの障害が発生し、NAS に保存しているバックアップファイルが使用できない際は、Wasabi に保存しているバックアップファイルを使用できるため、IT インフラのリスクを大幅に削減可能です。

復旧までの道筋

Wasabi はオブジェクトストレージのため、インターネット経由でエンドポイントへ接続可能なマシンがあれば、保存したバックアップファイルを簡単にダウンロードできます。異なる IT インフラへ移行してビジネスを継続 (BCP) するには、バックアップファイルをダウンロードしたマシン、またはネットワークで接続されているマシンに ActiveImage Protector をインストールし、移行先としたい IT インフラに適合するパッケージを指定して .aix ファイルを作成します。その後、当該ファイルをメガクラウドやデータセンター、他の拠点の異なる仮想ホストなどへ復元することで、簡単に移行を実現可能です。



クラウドマシンのバックアップ&リカバリー

AWS/Azure(Azure Boost 除く)/GCP/OCIをはじめとしたメガクラウド、各データセンターの仮想マシンについても、オンプレミス同様の操作でバックアップし、ActiveImage Protector の RescueBoot 機能を使用して、リカバリーと移行が可能です。



Wasabi に直接バックアップ

ActiveImage Protector は、保存先として Wasabi のバケットに直接バックアップ可能です。Wasabi における 1 ファイルの最大サイズ 5TB ごとに分割して保存もできるため、大容量環境にも対応します。また、リカバリーも直接実施可能です。バックアップファイルのサイズが大きい際には、事前にダウンロードしてからリカバリーすることで、高速にリカバリー可能な場合があります。



Wasabi 専用インターフェイス

ActiveImage Protector では、保存先選択時に Wasabi アイコンをクリックすることで、専用の接続画面が表示されます。アクセスキー、シークレットキーを入力後、リージョンを選択するだけで、バケット一覧を表示します。保存したいバケットを選択して簡単に保存先として指定可能です。

アクセスキー ID :			
シークレットキー :			
リージョン :	ap-northeast-1		
認証情報を入力してください。			
接続 キャンセル			
名前	更新日時	イメージタイプ	サイズ

ActiveImage Protector のバックアップファイル

ActiveImage Protector ではベースバックアップを初回におこない、日々のバックアップは変更箇所部分だけを増分バックアップとして作成します。Wasabi をイミュータブルストレージとして利用する場合、バージョニングとオブジェクトロックの所有期間 (推奨 30 日以上) を設定します。このような設定のバケットに対して ActiveImage Protector では、日々のバックアップの増分ファイルだけを継続して書き込みできるため、日々の処理を軽減しながら Wasabi へのバックアップ運用が実現できます。

また、Actiphy ImageReplicator では、2 次保存先となる Wasabi のバケットに対して 1 次保存先と同期、または個別スケジュールでレプリケーション実行など、ユーザーのネットワーク使用頻度などを考慮した設定が可能です。さらに、バックアップファイルの世代管理は ActiveImage Protector でも設定可能ですが、Wasabi 側のライフサイクル設定によりバケット内のバックアップファイル削除をすることも可能で、ユーザーのバックアップ運用ポリシーに合わせた自由な設定ができます。

